

令和7年度 学校経営方針

丹波市立南小学校

兵庫県基本理念 兵庫が育むところ豊かで自立する人づくり

丹波市基本理念 人を愛し ふるさとを想い しあわせのカタチを想像できる 人づくり

丹波市教育長 「すべての子どもたちがワクワクしながら毎日登校してくる学校」

地域ビジョン

沼貫地域 「ここに住みたい『きらめく沼貫』」(平成28年4月～令和8年3月)

南小学校 「この学校で学びたい・学ばせたい『ときめく南小』」(令和4年4月～)

1 学校教育目標

自他を愛し 学び合う子の育成
～自己の考えを持ち 伝え合う活動を通じて～

2 スローガン

みんなでつくる みんなが大切にされる学校

3 めざす子ども像

- 自ら考えすすんで行動する子
- 相手を大切にする子
- 力を合わせる子
- みんなのルールを守る子

4 学校経営方針

- 児童が地域社会の一員として、自己の強みを活かして自立して生きる力の育成。
- 教職員がウェルビーイングを高め、一人として欠けることのない職場づくり。
- 児童や教職員が連動し、パフォーマンスを発揮できる教育環境の整備。

5 重点指導目標

- ① 児童との対立のない関係性の構築
 - ・感情のラベリングと主導権を意識した先手支援の充実
- ② 社会的な生活習慣(あいさつ、言葉遣い、公共の場所や道具を使うときの態度、安全ルール、順番を守る、社会的な約束事やマナー)の育成
 - ・ねらいの見える化と数値による評価の見える化によるポジティブな生活指導の継続
 - ・ポジティブな行動介入と支援に基づく指導の充実(「やってみよう」「できたね」「もう一回」のサイクルの意識)

③ 確かな学力を育てるために

- ・教科担任制による授業の質の向上
- ・学びの土台となる力の育成（コグトレ・感覚統合・脳神経系トレーニング）
- ・主体的で個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ・体験的な学びの充実
- ・地域の教育資源を活かした学習の推進
- ・書く・協働する・表現する活動のある学びの創造

④ ゆたかな心を育てるために

- ・チーム担任制による関係性の質の向上
- ・チーム担任制による多面的な児童理解に基づく細かな指導の実現
- ・自己肯定感の育成
- ・社会的・職業的自立の基盤となるキャリア教育の推進
- ・多様な価値観や人権課題の理解をめざした人権教育の推進

⑤ 健やかな体を育てるために

- ・早寝プロジェクトによる情緒の安定
- ・オンラインゲーム依存の予防と啓発
- ・学期に2回の「社会性と情動の学習（SEL）」の実施
- ・基本的な生活習慣の確立
- ・体力と安全意識の向上
- ・体力アップサポーター派遣事業の活用

6 特別支援教育の充実

- ・ゲームやロールプレイを通じた障がいや多様性の理解の促進
- ・障がいの見える化による啓発活動の充実
- ・授業のUD化による学習意欲の喚起

7 いじめ・不登校への迅速・予防的・組織的対応

- ・多面的な児童理解と情報共有による多角的な指導の充実
- ・1日欠席電話連絡、2日欠席家庭訪問による早期対応
- ・いじめの積極的認知
- ・学期に一度のいじめアンケートとヒアリングの実施

8 子どもたちを支える仕組の充実

(1) 児童の多面的理解と個に応じた指導の充実

- ・先手意識の高揚
- ・チーム担任制による多面的な理解と多角的な関わりの実現
- ・発達や愛着形成の課題を有する児童への関わりの充実

- ・暴言・暴力への対応の明確化
- ・飛び出し、徘徊への対応の明確化
- ・先手支援と評価による関わりの徹底
- ・ABA分析による児童への介入

(2) 家庭との連携

- ・早寝プロジェクトの推進
- ・オンラインゲームによる依存症の啓発
- ・HPによる保護者への情報発信
- ・保護者との立体的な情報共有の充実
- ・PTAとの連携

(3) 地域との連携

- ・地域と協働するコミスクの推進
- ・地域、保護者、学校オールウィンの関係性の構築
- ・地域学校協働活動推進員との連携
- ・沼貫区自治振興会との連携
- ・コミスクカフェの活用
- ・ゲストティーチャーの活用
- ・地域住民な保護者の参画による授業の質の向上

(4) 教職員のウェルビーイングのために

- ・抱え込まず弱音を吐ける職場の雰囲気づくり
- ・勤務時間内でのゆとりの実現
- ・組織ワークの意識の高揚
- ・協働体制の充実
- ・働き方改革（水曜日の定時退勤、計画的リフレッシュ年休の取得、）

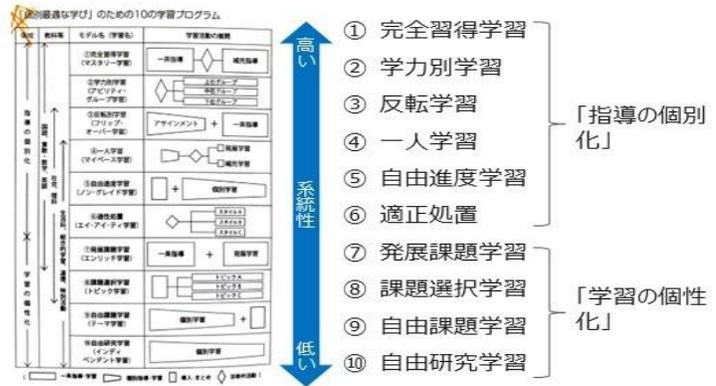
参考.子どもの特性(個人差)を考えれば、学習の個別化はむしろ合理的なやり方

過去100年間で多くの実践や研究がなされており、弊社コンサルタントの実践と併せて十分に実現可能

子どもたちの個人差

学びの個別化

- ① 学力差 (到達度)
 - ② 学習時間差
 - ③ 学習スタイル (適性)
 - ④ 興味・関心差
 - ⑤ 生活経験差
- 「指導の個別化」
- 「学習の個性化」



出所:「個別最適な学び」のための「新しい」授業を創る (加藤幸次) より

【参考】

領域	教科等	プログラム名 (学習名)	学習活動の展開
↑ (指導の個別化) ↓ (学習の個性化)	↑ (国語、算数・数学、英語) ↓ (社会、理科) ↑ (生活科、総合的学習、道徳、特別活動)	① 補充学習 (マスタリー学習)	[一斉指導] —◇— [補充指導]
		② 学力別指導 (アビリティ・グループ学習)	◇ — [上位グループ] — [中位グループ] [下位グループ]
		③ 反転授業 (フィリップ・オーバー学習)	[アサインメント] + [一斉指導]
		④ 一人学習 (マイベース学習)	[] + [個別学習]
		⑤ 二人学習 (ペア共同学習)	[] + [個別学習]
		⑥ 小グループ学習 (グループ協働学習)	[] + [個別学習]
		⑦ 発展課題学習 (エンリッチ学習)	[一斉指導] + [発展学習]
		⑧ 課題選択学習 (トピック学習)	[] — [トピックA] [トピックB] [トピックC]
		⑨ 自由課題学習 (テーマ学習)	[個別学習] + []
		⑩ 自由研究学習 (インディペンデント学習)	[個別学習]

([] 一斉指導・学習 [] 個別指導・学習 [] 導入・まとめ ◇ 診断的活動)

出所:「個別最適な学び」のための「新しい」授業を作る (加藤幸次)